

野口小蘋^{のぐちしょうへん} 明治三十七年帝室技芸員任命
 《青緑山水図》 一幅

明治三十九年（一九〇六）
 絹本着色
 本紙一八一・四×八四・七



本図は、明治三十九年（一九〇六）に宮内省より制作を命じられたもので、前景には高く伸び上がる松を描き、後景にはやや円みを帯びた柔和な山容を配する野口小蘋（一八四七〜一九一七）の得意とした青緑山水図である。山肌の点描にしても一点一点丁寧に筆が入り、非常に品のある山水図に仕上げられている。小蘋は、京都の日根対山に南画を学び、対山の描く山水図に温雅さを付加した山水図を編み出した。

小蘋と皇室の関係は深く、明治六年（一八七三）二十七歳の時に早くも皇后宮御寝の間に花卉の絵の揮

毫を命じられている。同三十年代からは昌子内親王、房子内親王をはじめ女性皇族方への日本画の指導を始めたこともあり、絵画の御用も頻繁に仰せつけられた。同三十七年には女性として初めて帝室技芸員に任命され、また大正天皇御即位の際には「悠紀・主基地方風俗歌屏風」の揮毫者（悠紀地方担当）に選出されている。

明治三十三年のバリ万博に際しては、宮内省の選出した画家の中には名を連ねていないものの、小蘋自身は「花鳥」「春景山水」「水墨山水」の三点を出品している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

皇室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 47

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年七月十九日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections